２０２１年度　京都保育福祉専門学院
自己評価及び学校関係者評価報告書

２０２１年3月
自己評価委員会

１．学校の教育目標

キリスト教精神により保育奉仕者・社会福祉専門職者の養成に力を注ぐことを基盤として、社会状況の変化に対応した養成教育を行う。社会福祉に関する専門職員になるための必要な知識と技能を修得し、キリスト教精神により円満な人格と豊かな情操を養い、社会福祉事業に献身する事のできる人材を育成する。

２．本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

保育福祉の担い手を要請する上で
根幹としてのキリスト教精神による教育の更なる推進
教育のあり方を改革し更に幅広い学生が学べる学校に
京都ほせん研修センターを軸とした研修事業の充実

３.評価項目の達成及び取組状況

（１）教育理念・目標　　※　適切…4　ほぼ適切…3　やや不適切…2　不適切…1

評　価　項　目	評価結果
理念・目的・育成人材像は定められているか （専門分野の特性が明確になっているか）	4
学校における職業教育の特色は何か	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
理念、目的、育成人材像、特色、将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3

①　課題

・学校の理念や育成する人材像については、学生便覧や学校パンフレットやホームページで公表している。また、ガイダンスやホームルームでも話す機会はあるが、学生や保護者が深く理解しているかは定かではない。学生のみならず保護者に対しても、積極的に伝える機会をもつ。

②　今後の改善方策

・ガイダンスやホームルーム等の場を活用して、学生が理念等について考える機会を増やす。
・学校独自科目でもあるチャペルアワーは、キリスト教精神論にふれる場である。チャペルアワーで体験したことから学生自らが「福祉」や「奉仕」について学ぶことを導いていく。

（２）学校運営　　※　適切…4　ほぼ適切…3　やや不適切…2　不適切…1

評　価　項　目	評価結果
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務、財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	3
業務や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

①　課題

・事業計画は中長期・単年度で計画を策定し事業運営をしている。この計画の遂行状況が教職員と共有できていない部分があり課題である。

・業務の効率化は校務支援システムを導入しているが、軽減にはいたっていない。

②　今後の改善方策

・教職員会議で事業計画について振り返りや進捗状況を共有することで、職員全体で事業運営に対する取り組み方の意識の共通化を図る。

・教職員の業務標準化を定め業務の簡素化をし、多能工化的な働きをすることで、少ない教職員でも運営に支障がないようにする。

（３）教育活動　　※　適切…4　ほぼ適切…3　やや不適切…2　不適切…1

評　価　項　目	評価結果
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
教育理念、人材育成像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての就業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫や、開発などが実施されているか。	4
関連分野の企業の企業・関係施設等、業界団体等との連携によりカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4

関連分野における実質的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技、実習等が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

・コロナ渦により非対面授業を取り入れたことで、学生の日々の授業内容の修得度の把握をするのに日数を要した。担任制をしているので、本来ならば学生の情報が担任を通してすぐに学科長に報告され、専任教員・非常勤講師にも授業内容の修正や補完体制が適時できなくなったことが課題であった。

・非対面授業により、学生の修学する意欲の低下もみられたので、授業形態の工夫が課題である。

・施設実習の受け入れ先がコロナ感染により、受入れを断られる事案が多発した。今後も断られることが予想されるので、実習園の確保や実習時期の変更を柔軟に行える体制をつくることが課題である。

② 今後の改善方策

・学生の状況把握のために、学生の修得度を測る小テストを用いたり、提出部で現状把握をできるようにする。学生が相談したい時に対応できる教員を当番制で配置する。

・教員がオンライン形式で行う授業形態の質をあげることで、学生の修学の意欲低下にならないようにする。

・オンラインでの施設見学など、実習の工夫をしていく。

（４）学修成果　　※　適切…4　ほぼ適切…3　やや不適切…2　不適切…1

評　価　項　目	評価結果
就職率の向上が図られているか	4
資格取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	4

卒業生・在学生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

・退学数は年々減少しているが、経済的理由や健康上の問題で退学を申し出る学生に対して効果的な対応ができなかった。

・卒業後のキャリア形成に対して、学生自らが知りたいとうい意欲が見られず、就職に対して積極的に動けていない姿もあった。このような学生が自ら能動的に自分のキャリアについて情報を得られる環境作りが課題である。

② 今後の改善方策

・退学のリスクがある学生に対しては、クラス担任・ゼミ担任・スクールカウンセラー・事務職員も含めて教職員全体で関わるようにし、保護者とも連絡を取り合い退学は回避できるように支援をしていく。

・１年生から就職フェアに参加するように勧めて、自分の卒業後のキャリアに対して興味をもたせるようにする。また、同法人内施設でのボランティアやインターンシップを通して、自分の望む職業を見つけられるようにする。

（５）学生支援　　適切…4　ほぼ適切…3　やや不適切…2 不適切…1

評　価　項　目	評価結果
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
社会人ニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高騰専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

①　課題

・学校独自の貸与型の奨学金制度がある。（賀集奨学基金・同窓会）利用している学生の返済が滞っているケースもあり奨学金基金がこのまま減少していけば、この制度の存続が危ぶまれる状況である。

・日本学生支援機構や地方の奨学金を利用している学生も多く、奨学金申込等に関わる事務的な支援を必要とする学生も多くいるので、対応に苦慮することも多い。奨学金が下りた時点での学費の分納や延納で対応することも多い。

・卒業後の退職や転職の相談を受けることはできるが、学校側から積極的に関われる人的余裕がない。

②　今後の改善方策

・２年前に入学金を減額したことにより、学生への負担は軽減したが、学校運営ではダメージもある。
　運営に関しては経費削減できるところは削減し、学校の安定運営を図る。

・同窓会の活動を活発化することで、同窓会奨学基金の存続できるようにする。

・学費の納入に関しては、学生のみならず保護者とも連絡を取り合い、納入時期や納入の仕方を柔軟に対応していく。

（６）教育環境

評　価　項　目	評価結果
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設、インターシップについて十分な教育体制を整備しているか	4
防災に対する体制は整備されているか	3

①　課題

・パソコンを使用しての授業では、設備トラブルが起こることがある。WI=FI 環境は整備しているが、ICT 環境の更なる整備をすることが課題である。

・防災に対する体制は整ってはいるが学生が防災訓練に参加できていないので、学生の防災意識が希薄である。

②　今後の改善方策

・ICT 環境の整備やパソコン等のオンライン授業で使用する機材の整備と管理をする。

・学生参加の防災訓練を年２回実施する。また学校を避難場所として地域に開放する時には、学生には避難者ではなく、避難所運営を手伝う役目を担ってもらえるよう、事前学習をする。

（７）学生の受入れ募集

評　価　項　目	評価結果
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

①　課題

・保育の専修学校として他の学校との区別化を図りながら、入学者を増やすことが課題である。

・幅広い学生を募集する上で、社会人への広報アピールが効果的に行えていない。

②　今後の改善方策

・適時、広報会議を開催し教職員全員で広報活動を行うことを意識する。

・オープンキャンパスや高校でのガイダンスでは学校の説明を丁寧に行い、専修学校ならではの保育を専門的に学べる、そして同法人内には保育士資格や幼稚園二種免許の資格を用いて、就職できる施設があることなど、学びから就職までの一貫してサポートできることもアピールする。

（８）財務

評　価　項　目	評価結果
中長期的に学校の財務基盤は安定していえるといえるか	3
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

①　課題

・安定経営のためには、入学者数の増加が必須である。

②　今後の改善方策

・中長期計画として、学生の定員充足を目指す。

・法人本部で適正に管理している。ホームページには財務状況を公開している。

・無駄な支出を無くし、教職員全員での会議で収支の状況を説明し情報共有する。

（９）法令等の遵守　　適切…4　ほぼ適切…3　やや不適切…2 不適切…1

評　価　項　目	評価結果
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
自己評価結果を公開しているか	3

①　課題

・設置基準等の現行法令の遵守はできているが、関係法令の変更時に情報収集に時間がかかることがある。また教職員全員で共有するのにも時間がかかり、迅速に対応できていないことも

があるのが課題である。
・コロナ渦の中、自己評価委員会と学校評価委員会の連動性がとれないことがあった。
②　今後の改善方策
・各関係機関の発表する情報収集を怠らない。
・コロナ渦の中で参集での会議ができない場合は WEB 会議を用いて、自己評価と学校関係評価のタイムラグが出ないようにする。

（１０）社会貢献・地域貢献　　適切…4　ほぼ適切…3　やや不適切…2　不適切…1

評　価　項　目	評価結果
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

①　課題
・コロナ渦の影響で学生ボランティアの募集が減少したり、中止になることが多かった。
・学校行事が開催できず、地域交流が出来なかった。
②　今後の改善方策
・コロナ渦でも感染予防対策をして、学校施設の貸し出しを積極的に行う。
・公開講座をオンラインで行う。

４．学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

自己評価及び学校関係者評価にまだ不慣れな点は否めない。課題を課題のままで終わらせるのではなく、改善することでよりよい専門的な職業教育ができると考える。
社会福祉を担う学生には、知識や技能のみならず、対人援助者であり「命と向き合い命と共にある」という法人理念に基づいた人材育成をしていくことが目標である。
入学してきた学生が有資格者として現場にでるまでの期間は２年間である。この２年間が学生にとってキリスト教福祉とは社会福祉とはと深き学びの場となるよう、教職員は自己評価を繰り返しながら、学院の目指す人材育成を誠実に行えるようにしていきたいと考える。
今回の評価では適切またはほぼ適切であったので、今後は学校運営の改善や整備を行いながら、時代にニーズ、現場のニーズに応えられるよう常に情報招集をしながら社会福祉を担う育成を行っていきたい。